

こうほうかりぶと

【1】

町議会、中島副知事、立木亮弘  
参議の選挙について  
明るくする運動  
窓口だより

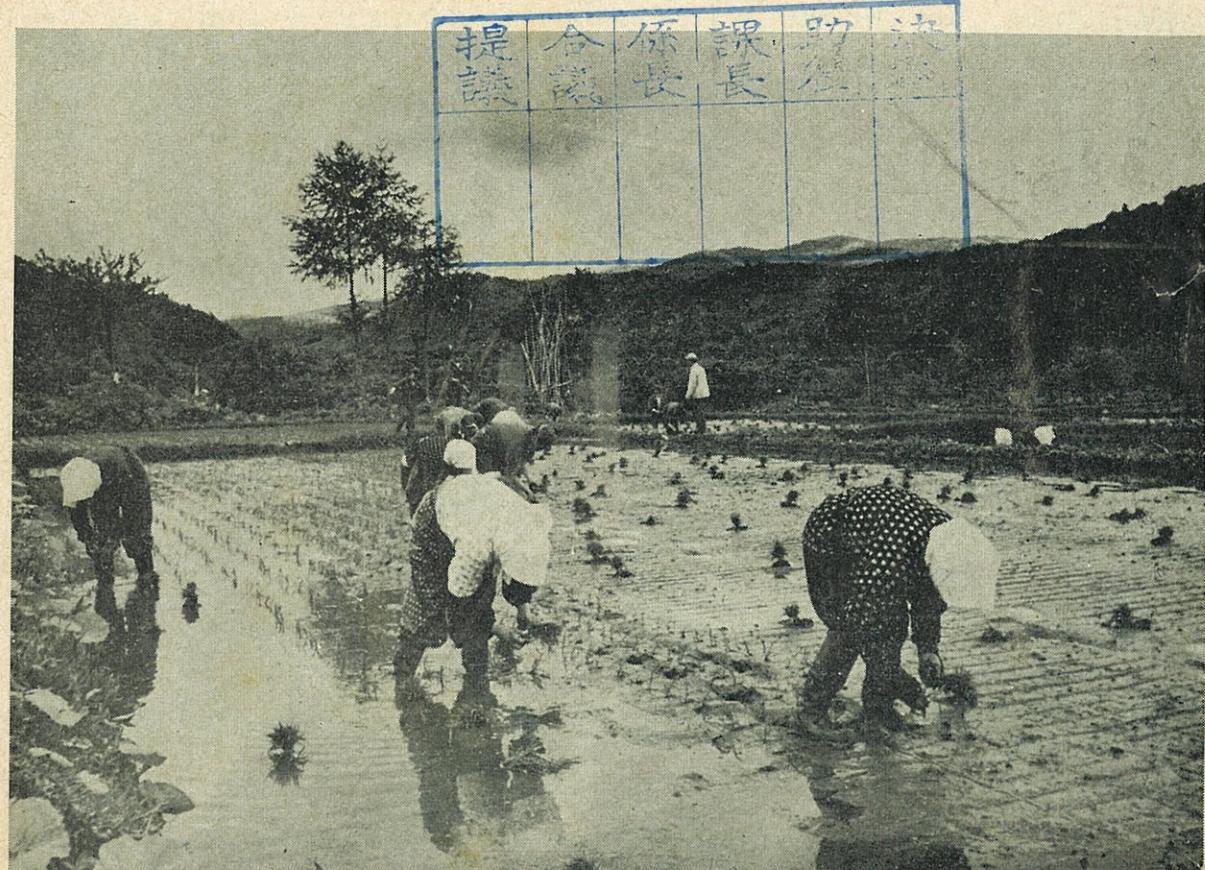
★王な記事★

五四三二二

# 広報かりぶと

昭和37年  
6月号  
【第66号】  
発行所  
狩太町役場  
印刷所  
稻林印刷

★昭和37年6月10日発行★



農業労働力は充分か?

自衛隊の援農風景 桂地区にて

草島喜作氏提供

★今月納期の町税は  
町民税 第一期  
健康保険税 第一期  
六月二十五日までに必ず  
納めて下さい。

5月2日	新任教師打合会
5月4日	民事調定委員会
5月4日	巡回映画教室
5月5日	産業委員会
5月7日	庁舎建設特別委員会
5月7日	生ワクチン投与
5月10日	北海道写真協会
5月10日	狩太支部総会
5月12日	狩太観光協会総会
5月14日	農業委員会
5月15日	狩太高校振興打合せ会 狩太町体育協会総会 狩太連合青年団役員会
5月16日	狩太町當農改善 推進機構総会
5月17日	臨時町議会
5月18日	狩太町農業共済組合総会
5月20日	俱知安交通安全協会 狩太支部総会
5月21日	ボイスカウト育成会役員会
5月27日	狩太町商工会総会 集団赤痢病発生
5月28日	教育委員会
5月29日	中島副知事来町 道路舗装工事打合せ
5月30日	





文作 母の日に寄せて



「私  
の  
母

その1

お母さん



昆布小学校六年二組

うか、今まで母は、休みの日だつて、ぜつたい休んじることはないのです。だから、母の日だつて、もちろん休んでくれたことなどはないのです。私が六年生になるまで、

母の日に思う



丘陵中学校三

けれども、私は、そう声を出して、いう勇気はありません。だから「おかあさん、ありがとうございます」と、私から、母への、感謝のことばを手紙でだそと手紙を書きま  
した。

一年をとおして、春が一番いそがしいので、いつも朝早く起きて夜はおそくまで働いている。  
そういう母を見ると、かわいそうになつてきます。手にはひびをきらし、手のひらのすじには土がいつて、洗つても落ちず、落ちても黒くなつて、しみになつています。  
つらい畑仕事をしたり、私たちの事を心配したりするので、顔は大きいしわや、こじわでいっぱいです。  
毎日外に出て働いているので、日にやけて小麦色になつています。  
「まるでインデアンみたいだ。」と言つて、ときどき私や妹がわらいます。  
すると母は「おまえたちのために働いてるんだよ。だから遊びなんかしないで、家へ、少しでも早く帰つて来て、手伝いを少しでもしてあげれば、それだけ楽だんだがなあ。」

高橋博子

「そう言つわれば、そうだと思います。」  
私のうちは、父と母と姉私、妹の五人家族です。ただ、家で働いている人は、父と母と二人だけです。それは、姉が毎日曾我の学校へ行つて、給食を作つているからです。そのため母は毎日てんてこまいをして働いているので毎日「かたがいたい」と言つています。  
又、母は、いつも私を「仕事をしないで遊んでばかりいる」と言つておこるので、ときどき口ごたえをします。あとから考へてみると、母にすまない気がしてなりません。せん。  
働いてもうけたお金で、私たちの服や学用品を買って、自分のものはろくに買わないでいる母。母は妹をおらないで、私がおこるので、いつもばかりおいでです。

すつと聞いています。夜になると「みつ子かたもんでちようだい」とか「サロンバスはつてちようだい」といいます。私はそんな母をみると、なんとなく、いやな気もちになります。というのは「ここうして、きゅううに病気にならんです。こんな時私は、いやでも「もし母がいなくなったら……」と思うので「うん」と返事をします。けれども、やつぱり、「そこしゃつたら」「もういいかい」といつて、やめてしまします。母は、しかたなさぞうに「いい」といいます。からだがいたいといつても仕事をやすむわけにはいかないのですが、朝からばんまで仕事をやっています。でも、いかにもこわそうですねですから、夜、家に入つて夕飯がすむと、すぐ、ねてしまします。

つてゐるのでしよう……。母は、私が二つか三つの時、せなかの、手じゆつで、病院へ入院しました。だから、私を育ててくれたのはおじいさんだそうです。でも母は、たいいんしてから、私をおぶつて、田んぼで働いていたのだといいます。そんな母は今、姉さんがいるので、少しは楽になつたようです。

けれども、からだの方は、だんだん弱つていくばかりです。もう少し母を、だいじにしてやりたいと私は思います。しかし、今の私にはどうしようもできない。だからそのためには、私が大きくなつしていくまで母にいきついてもらいたいものです。

ただ私が今できることは、一つ五月十三日の母の日に母のすきな、ごちそうを作り、赤いカーネーションをむねにつけて「お母さんありがとう」と、大きな声でいうことです。けれども、母は承知してくれるでしょ

五月第三日曜母の日が、やつてきました。母の日と言つても、別にこれと言つて、しなければならないという計画はないけれど、私はこう思う。今までではあまりにも、母の愛情になれすぎ、母のする事が普通にさえ思つていたものです。遊んでばかりいると「勉強をしなさい」と叱る母、学校の帰りがおそいと「今まで何していたのか」と聞く母、何かにつけて良く小言を言う母、私は、よくおこる母だなあと時々思う。

しかし、それは、にくいからおこるので、叱るのもない、私達のためと思えば、こそなのである。家事に追われ、仕事に追われる母、この頃は頭に白いものがボツボツ見え始めた母、私はかわいそうだな

藤中学校三年 浜塚祥子

